

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお ・ げんき ・ あいさつ ～
かんがえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子

年長児が、吉田島高校の
なから植えたパンジーの
花が咲きました。



開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第9号

発行日：令和7年12月24日（水）

発行者：杉山 孝史

今年もお世話になりました

長いと思っていた2学期も、振り返ればあっという間に過ぎ去ったように感じられます。焼けつくような残暑の中の「水遊び」、PTA主催「にこにこフェスティバル」、思いきり演技した「げんきもりもりフェスティバル」、サツマイモや弥一芋の収穫と会食、文化教養講座「らぐずたいむ」、園バスに乗ってみんなで出かけた園外保育など、素敵な思い出がたくさん詰まった2学期でした。

冬休みは12月25日（木）から新年1月7日（水）までの14日間です。年末のあわただしい時期、年始のゆったりとした時期と、生活に変化が見られる休みでもあります。生活のリズムを保ち、寒さに負けず体を鍛え、再び元気いっぱいに登園できるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

今年も保護者や地域、学校運営協議会の方々など多くの皆さまにお世話になりました。心より感謝申し上げます。どうぞご家族そろって、明るい新年をお迎えください。

2学期をみんなで締めくくる

2学期最終日の12月24日（水）、ゆうぎ室に全学年の子どもたちが集まり、第2学期の終業式を行いました。式の中で、年中・年長の代表児が、今学期にがんばったことや楽しかった思い出を発表しました。（左写真）「もりフェスでアロハのダンスを踊ったのが楽しかったです」「まっちゃんと遊んだことが楽しかったです」「紙飛行機を折るのが得意になりました」など、一人ひとりが自分の2学期をしっかりと振り返っていました。

今回は私がサンタクロースに扮し、子どもたちと一緒に♪あわてんぼうのサンタクロース♪を歌ったり、冬休み中の約束について話したりしました。

子どもたちは、友達やサンタの話にしっかり耳を傾けていました。「すてきさん」です。最後に声をそろえて園歌を歌い、気持ちよく2学期を締めくくることができました。冬休みや3学期の生活への期待が大きくふくらむ、充実した式となりました。



子どもたち一人一人が主人公

12月4日（木）、年長児による「虹色げんきフェスティバル」を開催しました。友達とアイデアを出し合いながら、お店やペープサート、コマ回しや紙飛行機など、思い思いの遊びを楽しみました。保護者の皆様にも遊びに加わっていただき、会場には笑顔があふれました。また、お母さん方による「うたなかま」（写真下）の歌声もゆうぎ室に広がり、温かなひと時となりました。「一人一人が主人公でキラキラ輝いていた」「子どもたちの3年間の成長を感じた」「親子ともども素敵な思い出ができた」など、嬉しい感想も寄せられています。

卒園まで残り3か月、子どもたち一人一人の良さや成長を大切にしながら、遊びと学びを充実させてまいりたいと思います。保護者の皆さまのご参観ありがとうございました。



開成幼稚園の保育を発信

本園では、日頃の保育で積み上げてきた成果を外部に発信する「公開保育」を、毎年2学期に実施しています。今年度は12月9日（火）、年少・みかん



組の保育を公開しました。子どもたちは、お祭りごっこや空き箱製作などの室内遊び、サーキット（写真）や砂場での戸外遊びを友達と関わりながら楽しんでいました。

今回、公開保育の情報を県内に広く発信したこともあり、町内の小中学校の先生方をはじめ、足柄上郡、秦野市、小田原市、箱根町、平塚市の幼稚園・こども園の先生方など、十数名の皆様に参加していただきました。「開成幼稚園の環境が素晴らしい」「子どもたちが笑顔でのびのびと生活している」など、肯定的なご意見を多くいただきました。

また、國學院大学の中野先生や町教委の上村指導主事からは、環境づくりや一人一人の園児に寄り添う大切さなどについて具体的にご指導をいただきました。公開保育から得られた様々な良さや課題を、今後の保育に生かしてまいります。

大森先生と遊んだよ！！

12月5日（金）、「うさぎの森企画」の大森靖枝さん（オーちゃん）をお迎えし、歌とお話し遊びの会を開きました。この日は、年中組の子どもたちがクラスごとに参加。会場には笑顔とワクワクに満ちた空気が広がっていました。

大森先生は劇団「風の子」の元団員として全国を巡り、子どもたちに笑顔を届けてこられた方です。開成幼稚園に来てくださるようになってから、もう15年以上。子どもたちとの温かな交流は、園にとって大切な時間となっています。

この日のプログラムでは、どんぐりでほっぺをふくらませたリスさんを子どもたちが演じたり、忘れん坊のサンタクロースの紙芝居を見たり、みんなでつながって歩いたり、約40分間があっという間に過ぎていきました。子どもたちは終始笑顔で、会場は冬の寒さを忘れるほどの温かさに包まれました。

子どもたち同士のふれあいから生まれた心豊かな時間に感謝です。大森先生、本当にありがとうございました。



どんぐり会館に笑いとどよめき

12月15日（月）、どんぐり会館においてPTA主催文化教養講座が開催されました。全学年の子どもたちと希望された保護者の皆様が参観し、ラストラダカンパニーによる舞台作品「らぐずたいむ」を鑑賞しました。ユーモアあふれる演技とリズム感あるパフォーマンスに、会場は笑いと拍手で満ち、子どもたちも目を輝かせながら舞台に引き込まれていました。親子で文化に触れる貴重な機会となり、驚きと感動を共有し合うことができました。



今回の文化教養講座は、企画から運営まで細やかにご対応くださったPTA役員の皆様のお力添えによって実現しました。おかげさまで、子どもたちと保護者にとって一足早いクリスマスプレゼントとなりました。素敵な時間をありがとうございました。

安全なバス利用にご協力を

園バス利用時は、事故防止のため必ずお子さんと手をつないでお待ちください。降車後も、お子さんが走り出さないようバスが離れるまで手を離さず見守っていただくようご協力をお願いします。



ひだまり

落ち葉

▼冬の気配が深まり、園庭の木々も衣替えをしています。ソメイヨシノはすっかり葉を落とし、静かに春の準備を始めました。イチヨウは鮮やかな黄色に、エノキはうす茶色に染まり、風が吹くたびに葉がひらひらと舞い落ちていきます。子どもたちは色とりどりの葉を集めて「落ち葉のプール」に飛び込んで大喜び。（写真）園庭の木々は、季節の移ろい子どもたちに教えてくれる身近な存在です。

▼そんな木々がくれた葉っぱや、お散歩で見つけたどんぐり、木の実、小枝といった「自然からの贈りもの」は、子どもたちにとって最高の遊びの素材です。手のひらに乗せてみたり、においをかいでみたり、色や形をじっくり観察したり。そして、その贈りものたちが主役となったのが、先日開催した「わくわくミュージアム」です。子どもたちは拾ってきた素材を組み合わせて、ユニークな動物やカラフルな模様、想像上の生き物など、素敵な作品をたくさん生み出していました。

▼一つ一つの作品をじっと眺めていると、レオ・バスカーリアの絵本『はっぱのフレディ』を思い出します。フレディは春に芽生え、夏には緑の葉として太陽の光を浴び、秋には赤く色づき、やがて冬の寒さの中で風に乘って地面に落ちていく葉っぱの話です。仲間と別れるときに「悲しい」と感じるフレディに、友達「私たちは土に還って溶け、次の春には新しい葉っぱを咲かせる力になるんだよ」と伝えます。物語は、命には始まりがあり、役割があり、そして終わりがある。それが次の命へとつながっていくという自然の真理をやさしく語りかけてくれます。

▼子どもたちが楽しそうに触れている葉っぱやどんぐりも、フレディと同じように役割を終えて土に還る途中の命です。遊びを通して、子どもたちは自然の素材の温もりや美しさを感じるだけでなく、命の循環という大切なテーマを体全体で受け止めているのです。自然とともに歩む日々が、子どもたちの心を豊かに育んでくれます。

